

*** 今日の健康（5月）***

< 毎年5月31日は「世界禁煙デー」 >

世界保健機関(WHO)は、平成元年に、毎年5月31日を「世界禁煙デー」(World No-Smoking Day)と定め、喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指した「たばこか健康かに関する活動計画」を開始し、世界各国で禁煙を推進するためのイベントを毎年実施しています。日本では、5月31日～6月6日までを「禁煙週間」と定め、禁煙や受動喫煙防止の普及啓発を進めています。

昨年令和3年の禁煙週間のテーマは「たばこの健康影響を知ろう！～新型コロナウイルス感染症とたばこの関係～」で、WHOは、喫煙者は非喫煙者と比較して、新型コロナウイルス感染症で重症となる可能性が高いことを報告していました。

今年WHOは、「世界禁煙デー」の2022年のグローバルキャンペーン“Tobacco：Threat to our environment（たばこ：環境への脅威）”を発表しました。このキャンペーンは、タバコの栽培から生産、流通、過剰な消費に至るまで、タバコが環境に与える影響について、一般の人々の意識を高めることを目的としています。また、このキャンペーンは、喫煙者にタバコをやめるための新たな理由を与えるものです。

年間8400万トンの二酸化炭素換算の温室効果ガスを排出するタバコ産業は、気候変動の原因となり、気候変動への耐性を低下させ、資源を浪費し、生態系にダメージを与えています。

タバコの栽培は、特に発展途上国において森林破壊の原因となっていて、紙巻きタバコ製造のために伐採される木材は年間6億本で350万ヘクタールの土地がタバコ栽培のために破壊されています。タバコ製品の製造のために消費される水は220億リットルで、タバコ農園のための森林破壊は、土壌の劣化を促進し、「歩留まりの低下」、すなわち土地が他の作物や植物の成長を支える能力の低下を招き、環境の劣化は対処能力の低い国に降りかかり、利益は高所得国に拠点を置く多国籍タバコ企業が得ています。

タバコ産業が地球環境にもたらす有害影響は極めて大きく、すでに枯渇しつつある資源とエコシステムに不必要な負荷をもたらしています。

タバコは毎年800万人以上の人命を奪っています。葉タバコ栽培、タバコ製品の製造販売流通消費と吸い殻などの廃棄物による二次的な環境破壊がさらに人々の健康を冒しています。

最近の問題として、金属片を入れた新型タバコが「凶器」になる可能性が憂慮されています。喫煙者の家庭にはタバコがごく普通にあり、タバコは乳幼児や子どもの興味を引きやすいため誤飲事故が多く、子どもの誤飲事故の中でもタバコの誤飲が最も多いです。最近加熱式タバコの喫煙者が増えている中、アイコスの新製品はスティックに金属片が入れられ、子どもが誤飲すれば口腔内を傷つけるなど、重篤な事故が増える危険性があります。



前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏